

ベーシックウイング

中学国語

古文 第3回 古文の読解 実戦 イントロ

次の文章を読みましよう。

近き頃^{ころ}にや、茶屋^{*}四郎次郎家来に、大酒を為^なすといふにはあらねども飽くまで酒を好みし老人^①有りしが、我は雷に打たれ死なん事を願ふと常にいひしを、^a「いかなる物好きにや」と笑ひければ、「さればとよ、我数年酒を好み、或^{*}は鬱^{*}を散らしあるは寒暑を凌^{しの}ぎて、酒の恩を受くる事報ずるに所なし。然^{しか}るに我何病にて死すとも、自害して死すとも、酒ゆ^bゑなりと、子弟はもちろん酒に料^{とが}を負はせなん。恩は報ひずとも、酒に^②悪名付けん事心憂^{うれ}けれ。雷に打たれ死なばその愁^{うれ}ひなし。是^{これ}に依^よりて願ふなり」といひし。おかしき事ながらもつともの一^{ひと}言と、人の語りぬ。

(根岸鎮衛『耳囊』による。)

*茶屋四郎次郎は幕府の呉服師。

*或ははあるいは。

*鬱を散らしは落ち込んだ気分をほらし。

問一 線 a 「いひし」・b 「ゆゑ」を現代かなづかいに直しなさい。

a () b ()

問二 線①について、本文中にこの「老人」の発言で「」がついていない部分が一箇所ある。その部分を抜き出して、初めと終わりの三字ずつを答えなさい。

() ()

問三 線②「酒に悪名付けん事」とは、この場合どういうことか。

最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大好きな酒にふさわしくない名を付けること。

イ 大変な酒好きだったと死後に悪く言われること。

ウ 酒のせいで死んだと酒が悪く言われる原因となること。

エ 恩に報いることのない恩知らずだと酒を悪く言うこと。

() ()

問四 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雷に打たれて死なないようにと願う老人の話聞いて、物好きだと笑ったところ、老人に反論された。

イ 老人は、酒を飲んでゆううつな気分をほらし暑さ寒さをしのいだので、酒に恩返しすることを誓った。

ウ 酒をたいそう好む老人が死んだときに、子弟が酒をうらむのは、心情として当然だと語った人がいた。

エ 老人は、大好きな酒が自分のためにせめられることをきらって、天災によって死にたいと願っていた。

()